

報

うでまくり

一般社団法人

福島県女性経営者プラザ

FJJPらしく

とにかくやってみよう!

一般社団法人 福島県女性経営者プラザ

会長 菊池 美保子



第29回定時総会で会長を拝命致しました。諸先輩方が大切に育て

てこられたFJJPが設立30周年を迎えるこの大事な時に、私で大丈夫なのかとても不安ですが、どうぞよろしくお願ひ致します。

FJJPとの出会いは、「あら、ミホちゃんぼつちやりしちゃうってどうしたの? 勉強が足りないのね、FJJPと一緒に勉強しましょ!」と、OG会員の菅野喜久江さんとバツタリお会いした時から始まります。あれから15年が経ちました。

初めての移動例会は、旧歌舞伎座での歌舞伎鑑賞、福島ゆかりの佐藤兄弟の演目でした。日本の伝統文化に触れる機会をもらえるのもFJJP、先日の宝塚観劇も貴重な体験でしたね。

大型講演会では、15周年にアメリカからヨシダソースの吉田潤喜氏、20周年ではホリエモンこと堀江貴文氏、30周年としてデヴィ夫人をお招きすることになりました。こんな凄い方々を福島に呼べる繋がりを持つ方がFJJPにいるということにいつも驚いています。今年の大型講演会も皆さんと力を合わせて成功させましょ!

入会して2回目の移動例会で、双葉町のダチョウ牧場を訪問した半年後に東日本大震災と原発事故が起きまし

- ◆ FJJPの目的 ◆
- ① 女性経営者としての資質向上
- ② 次の女性たちのための風土づくり
- ③ 共同事業の開発
- ④ 地域・社会への貢献

た。野生化したダチョウがテレビに映るたびに心が痛みましたが、FJJPはすぐに、全村避難となった飯舘村の菅野典雄村長をお迎えし、公開ディスプレイをこのままでは終わらせない」との強い思いで私たちは復興に邁進してきました。

震災から10年の節目に総括が行われるはずだったのに、コロナ禍となり私たちは総括できずにいます。復興の検証と「福島の今」を発信し続けるのも使命と考え、活動していきましょ。そのためにも、一般社団法人という法人格を持つ女性経営者の会であることをもっと活用し、会員皆さんの知識や経験、技能を「仕事」として確立していくことも考えてみませんか?

20周年記念事業の「女子学生懸賞作文事業」は、次世代の女性経営者育成の第一歩でした。受賞者の一人が「女性経営者になった時、いただいた賞金でカッコいいスーツを買って、それを着てこの会に戻って来ます!」と言っ

●うでまくりとは
古い川柳に「朝雨女の腕まくり」というのが。天気のよい朝にパラパラと急に降る雨は、女の腕まくりと同じで意気込みだけ、大したことはない...という意味。FJJP、女の腕まくりの真価はこれから!

てくれました。嬉しくて、ちよつと涙が出そうになりましたが、あの女子学生が入会してくれた時に笑顔で迎えてあげられるよう会長を頑張りましょ。

全身全霊でFJJPを愛し、育てて下さった故三田公美子会長は、いつも私に「つべこべ言わずにいいからやってみろ!」と言ってくれました。今もみてくれると信じて、『FJJPらしく、とにかくやってみよう!』



移動例会 (2024.7.1 六本木ヒルズにて)

第29回 定時総会

日時：2024年5月14日(火)
場所：ネーブルシティもとみや aube

第1部 記念講演会

「ジェトロ福島」の取組

～ふくしまと世界をつなぐ～

講師：日本貿易振興機構(ジェトロ)
福島貿易情報センター
所長 白井 一雄 氏



第29回 F J P 定時総会の第一部は、ジェトロ福島貿易情報センター所長・白井一雄氏による記念講演会でした。ジェトロ(日本貿易振興機構)は、1951年に大阪で設立されましたが1954年から拠点を海外に置き、1958年より経済産業省所管の独立行政法人として活動を続けています。目的は、日本企業の海外進出や海外の企業を日本に誘致するための支援を通して日本経済の発展や社会へ貢献すること。活動の内容はジェトロのホームページで紹介している「ビジネス通信」でも知ることが出来、世界経済を知る上でタイムリーな情報も収集することが出来るとのこと。白井氏は2023年に調査部として単身ドイツと福

島を歩き来したなかで見てきたことをいろいろ話して下さいました。ドイツでは、隣国でウクライナ戦争があり、一番の関心事は安全保障と移民問題でした。陸続きで起る戦争についての白井氏のお話しは、柔らかい中にもいつ日本で起きてもおかしくない状況を想像させてくれるものでした。安全保障問題に関する法整備の必要性、さらに日本の中小企業経営者も安全保障の重要性を知ることが、今後において大切なことだと感じました。各国の現地情報等の有料サービスがあることも紹介され、将来において海外展開を考える企業は、是非とも福島貿易情報センターの活用を勧めたい：と話されました。

講演後、来賓の金成孝典様からの「地方ではハードルが高い輸出、原発問題等があるが地方の中小企業へのアドバイスを：」という質問には、「ビジネスのロジックは変わらないので、製品の強みを生かし福島のポテンシャルを信じてどんどんPRしていきましょう。」

第2部 定時総会

という心強いお言葉をいただきました。経営者は、政治経済を知ることがもちろん、世界情勢を見ながらバランスを保って進むことの重要性を教えられた講演会でした。

第2部の定時総会では、来賓の福島県中小企業団体中央会副会長兼専務理事・金成孝典様からご挨拶をいただき、続いて安斎会長の挨拶、出席者確認、2024年度事業計画はじめ次の議案が原案通り可決しました。

- ◆第1号議案 2023年度事業報告並びに収支決算報告承認の件
 - ◆第2号議案 2024年度事業計画並びに収支予算(案)承認の件
 - ◆第3号議案 役員改選の件
 - ◆第4号議案 定款並びに内規改正の件
 - ◆第5号議案 その他の件
- 役員改選では、新たに菊池美保子会長が選出され、安齋恵美子前会長からバトンが引き継がれました。各委員長が自己紹介に続き、菊池美保子新会長より「F J Pらしく、とにかくやってみよう！」という挨拶とともに新たなスローガンも示され、いよいよ2024年度 F J P が始動しました。



会員に聞く*

4月定例会から

(有)濱崎家具店 濱崎富美子 会員
(株)共学社 渡邊 朋子 会員
ファシリテーター 安齋恵美子

Q：代表になったきっかけは？

濱崎：義父が急逝し、主人が代表になった。多くの方々に支えられたからこそここまでやってこられた。

渡邊：代表の義兄が突然辞任。自分が保育士を退職して代表になった。今は社員も様々な場面で協力してくれている。

Q：今後のビジョンは？

濱崎：家具店も今は変って来た。店内に沢山家具を置くよりも特注の家具や修理、ハウスメーカーからの注文がメイン。今いるお客様を大切に、地域の方々の手助けをしていきたい。

渡邊：今年4月に学童保育を始めた。様々な問題を抱え悩んでいる親御さんが多いことが分かり、まだこれからの施設ではあるが、

経営者としての役割も担いながら、子どもたちや困っている親御さんの力になりたい。



郡山市・アジアンパブーン
渡邊会員(左)と濱崎会員(中央)

6月定例会

2024年6月24日(月)
会場：KAI KORIYAMA(郡山市)

変化の激しい今 変えるもの、 変わらないもの

講師 株式会社東邦銀行社外取締役
高島 英也 氏



6月定例会は、株式会社東邦銀行社外取締役、学校法人酪農学園理事長高島英也氏にご講演いただきました。サッポロビールでは入社されてから退社されるまで41年間勤められたそうです。その間各地域の工場長を経て執行役員、そして代表取締役、最後は顧問まで歴任され華麗なる経歴を築き上げられました。生産技術に長年携わっていた立場からいきなり会社の役員となり辛い経験もあった中、27年の生産技術の経験や12年経営に携わってきたお話をされました。

■仕事にも時に遊びを取り入れる

現在は酪農学園理事長を兼務される傍ら不登校支援施設での活動を継続的に行い、子ども達に名付けてもらった「でや」の愛称で親しまれている。

工場長時代は、イベント、工場見学など地域との交流を大切にしていたこ

とで地域の住民が自然に集まり、頼りにされた。仕事も時に遊びを取り入れると社員の本質を知る機会があり、遊びを通じた交流から社会課題が自分事になることもあった。体感や気づきがある時に本気の葛藤を起こすことがあると感じた。

■リーダーの必要条件とは

歴史を振り返るとNYテロも防ぐことができたのではないかと。事前に複数の情報をキャッチしていたのに、課題の全体を認識できる多様性が欠落していた。本事例から学ぶものは、今の組織に対して先入観を意図して壊すことができるか？ 気づいた想定外のことを組織で即活かせるか？ リーダーに欠かせるべき力量は、異質な視点≠持ち味を尊重する習慣である。リーダーの必要条件として、自己開示と他人からどう見えているか聴くことが大切である。



高島 英也 氏
福島県伊達市出身
東北大学農学部卒

主な経歴：サッポロビール(株)大阪工場製造部長、仙台工場長、取締役兼執行役員等を経て、2017年 代表取締役社長に就任。2021～23年 サッポロビールホールディングス(株)顧問。2022年 (株)東邦銀行社外取締役、2023年 学校法人酪農学園理事長就任。(現在に至る)

変えるものは「自分自身」であり、他人を変えようとするとはスムーズにいかず、ストレスで自分のメンタルが傷ついてしまう。反対に自分自身を変えようとスムーズにいく。そのためには他人の自己表現に訴えかけるような自己開示をし、自分がどこにいるのか気づけば行動は変えられる！

自分の事を話す時は、できるだけシンプルにし、健全な不安(何でも話すことが出来る場、多様性とそれを受け入れる雰囲気)、すべてが自分事に、利他の気持ち、無我夢中状態(自己実現)の内容を取り入れること。

すべての源は自分であると感じた講演でした。人生死ぬまで学びと言われます。このような学びが出来るFJPに感謝です。



熱心に話を聞く会員のみなさん



講演する高島英也氏

7月移動例会

2024/7/1(月)~2(火)

東京タワー / 宝塚月組公演(東京)ほか

talk show トークショー

- ゲスト：東京タワー オーナー家
ART FAIR TOKYO Fellow
前田めぐみ氏
- ファシリテーター
菊池美保子会長



7月は移動例会として、東京タワーオーナー家の前田めぐみさんと共に東京タワー見学とトークショーを楽しみました。2日目は希望者のみで宝塚の月組公演を観劇しました。

この企画は、めぐみさんと親交があった佐藤友美理事の計らいで実現したものです。当日は、あいにくの雨模様でしたが、まずは東京タワーのトップデッキツアーに参加。エレベーターで展望台に上る前に、最先端のテクノロジーでめぐみさんの義理祖父である前田久吉氏（産経新聞創業者、日本電波塔の創設者）にお会いすることができました。250mの高さから見る東京の景色は見たえのある眺めでした。参加した皆さんはすっかり修学旅行

気分。所々で通行中の人に集合写真を撮ってもらったり、おみやげを買ったりしていました。その後、六本木ヒルズ内の「La Brianza」でイタリアンを堪能し、二次会は、めぐみさんのご友人が経営する銀座の「LILLY LAYUR」でシャンパンを味わいながらトークショーを行いました。

現在主催されている「ART FAIR TOKYO」は、アートコレクターだった義父、義母が始めたもので、アートフェア前進のコンセプト、アートを身近に感じられるの思いを引き継いだそうです。ギャラリーのオーナーから気軽に話を聞くことが出来る現代アートや古美術が集うアートフェアで、来年3月7〜9日まで国際フォーラ

■前田めぐみ氏 港区青山出身

リクルート不動産会社、建築家、NTTパーソナルの秘書を経て、現在ライフカウンセラー(結婚相談所)、日本電波塔の創設者前田久吉氏の孫嫁
ART FAIR TOKYO Fellow

ムにて開催されます。後半は、秘書時代の苦労やこれまでの人脈を生かして結婚相談所を起業したお話をされました。その後、会員一人一人の自己紹介、質問などで親交を深めました。

2日目は、希望者による宝塚月組公演「Eternal Voice」消え残る思いを観劇しました。月組トップスター月城かなとさんの退団公演に酔いしれることができ、楽しかった2日間の思い出と共に帰途に着きました。



▲東京タワートップデッキツアーでの記念撮影
後列中央が前田めぐみさん



▲皆さん、タカラジェンヌになりきっています！



美味しいランチの後のシャンパンバーにて



8月 会員交流会

—— かくし芸大会 ——

2024年8月27日(火)〜28日(水)
会場：岳温泉 光雲閣

新型コロナウイルスが昨年5月に「5類」に移行されたことで、それまで自粛していたFJPの宿泊による会員交流会も復活しました。昨年引き続き2回目となる今年は、二本松市の高台にあり眺めの素晴らしい光雲閣にて開催。恒例の各委員会かくし芸大会も復活して楽しい交流会となりました。

各委員会とも集合時間前から集まり、音合わせや衣装合わせ、そして練習と、かなり力がいっていました。さすがFJP！どんなことにも力を抜くことはしません。綿密に打ち合わせをしながら話をまとめていく委員会もあり、個性豊かできまさに修学旅行を彷彿とさせる熱気が感じられました。

理事会では、設立30周年事業として11月に開催する大型講演会のタイムスケジュールが三部香奈事業委員長からあり、各委員会への役割分担、協賛や後援の依頼方法、女子学生の参加への打診など、手際よく進めることが出来ました。

理事会が終わるといよいよ交流会です。会長の挨拶に続いて、かくし芸は総務委員会がトップバッターで、華やかなベリーダンスが披露されました。続いて事業委員会のフラダンス。音楽にのってしつとりと踊る様子は練習の成果が感じられるものでした。全員で出来るマジカルバナやサイコロトークなどで会場を盛り上げたのは交流広報委員会でした。そして最後は、恒例のじゃんけん大会で、会長賞、直前会長賞、前々会長賞と大盛り上がりとなりました。交流会が終わっても、ほと



事業委員会

んだの会員がそのまま2次会へと流れ込み、笑いの中で無事に終えることが出来ました。各世代の女性経営者がかくし芸を通して一つになったことが確認でき、何とも癖になる交流会でした。

各委員会のメンバーのみなさま、練習本当におつかれさまでした。



総務委員会



交流・広報委員会

11/28 デヴィ夫人講演会開催

EJP 30周年記念特別講演会

「人生のモチベーション」
～生きる秘訣～

講師：デヴィ・スカルノ夫人

【日時】2024年11月28日(木)
開場 17:00
講演 18:00～19:30

【会場】けんしん郡山文化センター(中ホール)
福島県郡山市堀下町1-2
電話 024-934-2288

【入場料】2,500円(全席自由)
※当日の受付にてお申し込みください。定員に達した場合は先着順となります。

主催：一般社団法人 福島県女性経営者プラザ

後援：福島県知事 福島県議会 福島県教育委員会 福島県労働委員会 福島県商工労働振興会 福島県観光振興会 福島県健康福祉委員会 福島県生涯学習振興会 福島県生涯学習センター 福島県生涯学習センター 福島県生涯学習センター

9月定例会

2024年9月10日(火)
会場：茶寮おりおり(福島市)

2024年大胆な事業変革(イノベーション)の時 ～女性経営者の皆様とともに～

講師 (財)とうほう地域総合研究所理事長
(株)東邦コンサルティングパートナーズ 代表取締役社長

矢吹光一氏



9月定例会の講師は(株)東邦コンサルティングパートナーズ代表取締役社長の矢吹光一氏をお招きしての講演会でした。

——福島県の人口は、震災後27万人減少し、2040年に推計140万人まで減少している今、過去のビジネスモデルは全く通用しない。近年は、エクイティ(公平性)一人ひとりがパフォーマンスを出せるよう、個々に合わせて支援内容を調整し、公平な土台をつくり上げることを掲げる企業が増えていく。今年はまだに変革の年。大胆な経営変革を求め、長く事業再生を手掛けてきたと、矢吹氏は話す。

■挑戦し続ける女性経営者

自ら出会った伝統を守りながら改革

を続ける長寿企業や地域のための挑戦を続ける女性経営者をスライドを交えて紹介。

・国見に移住した小林味愛氏は、見向きもされない規格外の桃を東京で自ら販売することで農家さんの信頼を得、廃棄されるあんぽ柿の皮でフェミニンケアブランド『明日わたしは柿の木にのぼる』を立ち上げた。地域のために働く、という強い思いは、たばこ農家に生まれ地域に助けられて成長した矢吹氏自身の思いでもある。

・障害者雇用の先駆け、(株)クラロン田中須美子氏(99歳現役女性会長)。

・町工場の娘としてドラマにもなり、主婦から社長になった諏訪貴子氏。

・Every wall is a doorの言葉が心に残る資生堂ブランド育成に貢献した資生堂史上2人目の女性代表取締役鈴木ゆかり氏：を紹介。

■福島に関わる魅力的な地元経営者

・双葉町に糸やタオル製品を製造するフタバスーパーゼロミルを稼働させた浅野燃糸(株)代表取締役社長浅野雅己氏。

・2010年より新たに創られた『歩己』の売り上げを120倍に伸ばしている豊国酒造合資会社代表社員矢内賢征氏：など。

■真のリーダーとは

リーダーシップは教わるものではなく、自らの生き方の中に見出す。リーダーシップという挑戦に求められるものは、見えないものを見る力。見る、観る、診る、看る、視る：五感で。



学ぶときは学ぶ！これぞFJPの本質です

■事業継承について

相談件数が設立前と比較し1.7倍(M&Aは2.7倍)になっている。東邦コンサルティングパートナーズを設立したことが相談増加の要因の一つと考えられる。

とうほう地域総合研究所の企業経営者アドバイザーとして6月定例会の講師高島氏などの専門家をおいている。

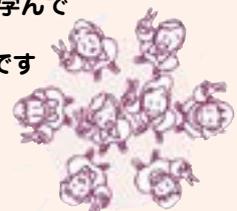
■感想

最後は、「今こうして女性経営者の皆さんと出会ったわたしは、会う前のわたしとはちがうのです」邂逅、出会いに感謝。という心に染みる言葉で締められた。

菊池会長の「ねっ、熱かったでしょ！」から続くお礼の言葉に、会員一同大きく頷くあつという間の1時間でした。

新入会員募集中!!

FJPは、
会って 語って学んで
ホットな
交流のひろばです



■お問い合わせは事務局まで
☎ 080-2671-8966
http://fjp-net.com

新会員ご紹介

有限会社 大原運送

営業部長 運行管理者 大原 亮子さん

(総務委員会)



弊社は、昭和49年に設立以来、変化する物流業界、東日本大震災など様々な

困難も乗り越え歩んでまいりました。

また、安全第一を最優先し、地域社会、お客様、従業員の三者が一体となつて協力し共に発展し、社会に貢献することを目標としています。

私は、兄でもある代表取締役のサポートとして全ての管理業務に携わっております。私も兄も、創業者である父の背中を子供の頃から近くで見えてきました。東日本大震災の際は、放射能による漠然とした不安に恐れ、沢山の方が福島県を離れていくのをよそに、「福島県で起きた事は福島県民で対処しないでどうする」と父の言葉で業務を遂行しました。おかげで全国各地の方々の目に触れ沢山のご支援を頂い

た事は生忘れられないものとなりました。今年5月にFJPに入会させていただき、会員の皆様の明るく前向きな雰囲気がとても頼もしく感じました。皆様との交流を深め様々な経営方針に触れ、沢山のアドバイスと知恵を学ばせて下さい。どうぞよろしくお願いいたします。



株式会社 白川商店

取締役 橋本 和子さん
(事業委員会)



弊社は、福島県郡山市を拠点とし、金属スクラップの買取と産業廃棄物の適正処理を総合的にお手伝いさせていただき、お客様の安心・お客様からの信頼、そして限りある資源の有効活用を心掛

け、リサイクル事業に取り組んでおります。

結婚を機に、主人と共に父の会社に入社しましたが、子育て等を理由に対外的な活動は主人に任せきりでおりま

した。少しずつですがサポートできるように、経営者としての考え方など学ばせていただきたいと思い、今年の5月から入会させていただいております。女性経営者として活躍されているFJPの皆様との交流を通して、沢山の刺激をもらい、人としても成長していければと思います。

まだまだ経営初心者の私ですので、皆様からのご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

“ほんとうの空”の下に広がる紅葉の絨毯

福島の自慢

『安達太良山』

安達太良山(標高1700m)は、福島県中部にある活火山で、「日本百名山」「新日本百名山」「花の百名山」などに選ばれています。山頂部には、直径1.2km、深さ150mの沼平火口があり、冬のスキーはもちろん、春・夏には登山客が、秋には美しい紅葉の景色を見ようと県内外から多くの方が訪れます。安達太良山には岳温泉の源泉が湧き出ており、いくつもの温泉群があります。

さらに、安達太良山の八合目・薬師岳山頂にある展望スポット「薬師岳パノラマパーク」からの眺めはまた格別です。「あだたら山ロープウェイ」を利用して5分ほど歩くと、錦秋に燃える真っ赤な紅葉の絨毯が広がる絶景に出会うことができます。



原稿募集

「福島の自慢」「我が家のペット」「耳寄りな話」など、皆様から原稿を募集しています。

●詳しくは交流広報委員会までご連絡ください



◆総務委員会

新体制での第二回総務委員会は、6月5日(水)に、福島市「益蔵」にて菊池会長、安齋直前会長にもご出席いただき、総勢10名で実施。新会員も増えたので、総務委員会業務内容の確認をし、2024年度事業の役割分担、今後の検討事項等について話し合いました。例会の出欠確認については、ラインアプリを活用し、資料配付もペーパーレス化を進めていくことに致しました。ご不便をおかけすることも多いと思いますが、ご理解ご協力よろしくお願ひ致します。

今年度は移動例会や大型事業等もあるので、会員にとつて有意義な例会となるよう運営して参ります。その後は恒例の乾



杯! 美味しいイタリアンを堪能しながらお喋りに花を咲かせました。二次会は、菊池会長行きつけの昭和感満載のスナックへ…。楽しい懇親会となりました。

(総務委員長・永峯美緒)

◆事業委員会

事業委員会は、6月11日(火)に郡山市の郡山ビューホテル唐紅花で第1回委員会を開催し、新旧メンバー10名が出席して今年度の事業委員会の役割分担などを決めました。また、前委員長の会田和子会員、前副委員長の長尾千代美会員、今年度から交流広報委員会に変更になった山田より子会員に感謝の花束を贈り、和やかな雰囲気の中で懇親を深めました。

また、岳温泉光雲閣で開催された8月会員交流会では、上石美代子相談役と紺野涼監事をお迎えし、委員会有志でフラダンス「月の夜」をお披露目することができました。



紺野監事のご指導とプロデュースのもと、2回の合同練習と、血と汗にじむ個別練習(笑)を重ね、本番を迎えました。その日のブルーのフレードレスに身を包み、心を一つに踊ることができ、委員の皆様からは「良い思い出アルバムのページになった」「皆様と一緒に達成感を味わえたことが何よりうれしかった」などのお声をいただきました。

(事業委員長 三部香奈)

◆交流・広報委員会

7月19日、澤上監事のお店「陣屋す吾六」の満席大盛況のお座敷で、前委員長の長沢理事をお迎えして開催。

矢部委員長を中心に、欠席無しの6名が参加。まずは、うでまくりのこれからの方向性と、次回発行の記事分担当を確認。問題点として配布時の例会欠席の会員に、うでまくりが渡せないことが上がり、各例会に腕まくりを用意して会員に配布する



ことを決定。大いに飲み、大いに食べた後は、8月27日の会員交流会に向けて光雲閣さんとの連絡、出欠、交流会進行等々の打ち合わせをしました。タイムスケジュールの大切さを長沢理事よりお聞きし、目的を明確にして前進できた委員会となりました。今までの長沢理事が交流広報委員長として多方面にわたりご尽力くださったかが分かり、とても有難く思いました。一人一人が自分の出来ることをし、新しいことにも挑戦で行きたいということで最後は締めくくりました。途中、会員の一人が体調不良になるというアクシデントも起きましたが、澤上理事がすぐに正露丸を買いに走る! という愛に満ちたエピソードもあり、楽しい委員会となりました。

(交流広報副委員長 杉原晴美、佐藤直美)

編集後記

今回のうでまくりは、右も左も分からない中、皆様のご尽力ご協力により無事発行することが出来ました。これからも内容の濃い会報発行に向けて努力して参ります。今後ともご協力よろしくお願ひ致します。

(交流広報委員長・矢部祥子)